

企画展「奇才の絵師 張月樵 - 彦根～京～名古屋への道 -」展示作品リスト

	作品名称	作者	数量	品質形状	制作年	法量 (cm)	所蔵者
1	大黒図	張月樵(1765-1832)	1幅	絹本着色		縦86.7 横27.3	個人
2	美人図	張月樵	6曲1隻	絹本着色		各縦60.0 横33.0	名古屋市博物館
3	秋草に鶉図	張月樵	1幅	絹本着色		縦93.2 横32.7	個人
4	寿老人拝暎図	張月樵	1幅	紙本着色		縦99.5 横34.7	個人
5	蔡文姬帰漢図	張月樵	1巻	紙本淡彩		縦45.0 横398.3	彦根城博物館
6	花鳥図	張月樵	1幅	絹本着色		縦104.2 横32.8	敦賀市立博物館
7	不老長春孔雀図	張月樵	1幅	絹本着色		縦166.3 横101.5	個人
8	花鳥図	張月樵	1幅	絹本着色		縦96.2 横37.4	個人
9	百鳥図	張月樵	1巻	紙本着色		縦33.3 横429.4	懐古堂 KAIKODO (懐古堂コレクション KAIKODO COLLECTION)
10	鯉滝登図	張月樵	1幅	絹本着色		縦103.8 横34.7	草津市立草津宿街道交流館 (中神コレクション)
11	旭日に鶴図	張月樵	1幅	絹本淡彩		縦114.7 横41.7	個人
12	薔薇に雀図	張月樵	1幅	絹本着色		縦102.8 横35.6	個人
13	秋景山水図	張月樵	1基	紙本着色		縦121.8 横97.7	真宗大谷派名古屋別院
14	雪中花鳥図	張月樵	2曲1隻	紙本着色		縦144.8 横119.0	徳川美術館
15	花鳥図	張月樵	1幅	絹本着色		縦152.1 横69.9	名古屋市博物館
16	関羽周倉図	張月樵	1幅	絹本着色	文政10年 1827年	縦127.0 横51.0	名古屋市博物館
17	歳旦摺物	画：張月樵	1枚	木版色摺	寛政2年 1790年	縦36.0 横49.2	名古屋市博物館 (下郷家俳諧資料)
18	「軍配に桜図」摺物	画：軍配 牧墨僊 桜 張月樵	1冊	木版色摺		縦20.7 横28.2	名古屋市博物館
19	『続姑射文庫』	編：桜田臥央 画：風折有丈・張月樵	5冊	木版墨摺	寛政10年 1798年刊 (文化8年増刻本)	縦26.2 横18.6	彦根城博物館 (井伊家伝来典籍)
20	『不形画藪』	張月樵	1冊	木版色摺	文化14年 1817年	縦28.3 横19.1	名古屋市博物館
21	『新姑射文庫』	編：照井普洛 画：張月樵	3冊	木版墨摺	文政元年 1818年	縦25.7 横18.4	彦根城博物館 (井伊家伝来典籍)
22	「瓦礫舎和尚追善書画会」引札		1枚	木版墨摺		縦15.0 横19.9	名古屋市博物館
23	「先師呉月溪先生書画会追薦」引札		1枚	木版色摺	文政10年 1827年	縦17.3 横30.4	名古屋市博物館
24	「書画会」引札		1枚	木版墨摺	天保4年 1833年	縦20.2 横26.4	名古屋市博物館
25	「月樵先生追薦詩歌連俳書画会」引札		1枚	木版墨摺	嘉永5年 1852年	縦18.4 横30.5	名古屋市博物館
26	五聖図	市川君圭(1736-1803)	1幅	絹本着色		縦100.3 横32.2	個人
27	群仙図	山田宮常(1747-1793)	1幅	絹本着色		縦103.4 横41.0	個人
28	高砂図	張月戴 (晋齋 1813-1875)	1幅	絹本着色		縦43.9 横50.7	個人
参 考	許由巢父図のうち		1幅	紙本淡彩		縦90.2 横28.3	個人
参 考	雪中梅に鴨図		1幅	絹本淡彩		縦167.2 横85.9	個人

写真解説

*番号は作品リストの番号と一致します。

5 蔡文姫帰漢図 張月樵筆 1巻

紙本淡彩

縦45.0cm 横398.3cm

当館蔵

天下の混乱中、後漢の蔡文姫がさらわれ、南匈奴の左賢王の妻となって2人の子を産んだ後、父と親しかった曹操によって身代金が支払われて帰郷が叶ったものの、子は置き去りになったという故事に取材した画卷。巻末の馬上の女性が蔡文姫。人物表現にアクや誇張があり、奇怪な印象を与えるこの画の源流は、中国の個性的な明清時代の画と考えられます。月樵画の形成には、中国画の果たす役割が小さくなかったとみられます。巻末に彦根藩儒の龍玉淵(1751~1821)の跋文があり、本作は、「本藩太夫管君」が所持していたとあります。管君とは、彦根藩士の吉用家当主と考えられます。



(部分)

6 花鳥図 張月樵筆 1幅

絹本著色

縦104.2cm 横32.8cm

敦賀市立博物館蔵

地面は描かず、植物と鳥のみを配置する1幅。鶴は真鶴で、顔の毛並みを長くふんわりと立ち上がるように誇張し、羽は背中に覆い被さるように、そして指を長く描き、全体にスマートな端正さが強調されています。木にとまる小禽は斜めのラインを強調し、庚申薔薇は、鶴の足元に這うように配置し、全体にシャープな幾何学性を志向するデザイン性の高い作品です。鮮やかな色彩で細密に描く鳥や花は、江戸時代中期に来日した清の画家、沈南蘋に連なる南蘋派の影響がみられますが、かなり消化されています。



(全図)



(部分)

9 ひやくちょうず 百鳥図 張月樵筆 1巻

紙本著色

縦33.3cm 長429.4cm

懐古堂 KAIKODO (懐古堂コレクション KAIKODO COLLECTION)

多くの鳥を描いた画卷。狭い紙幅、軽い筆致、薄い彩色などから判断して、本画ではなく、下絵または粉本ふんぼんと考えられます。本画でないからこそ、淀みない自由な筆致が際立ち、この上ない生彩を放つ魅力的な作品です。鳥たちのコミカルな動き、表情、特に口角の上がったにやりとした表情は、人の笑みを誘います。月樵は、円山応挙の高弟、長沢芦雪ながさわろせつ (1754-1799)の豊かな動物表現の影響を受けたと言われていますが、月樵画は、芦雪画より一層親しみやすい表現となっています。



(部分)

14 せっちゅうかちょうず 雪中花鳥図 張月樵筆 2曲1隻

紙本著色

縦144.8cm 横119.0cm

徳川美術館蔵

振り返った幹に長い枝の松どはとなだらかな土坡、そこに降り積もる雪の白と背景の金泥とが溶け合う図の源流は、有名な円山応挙まるやまおうきよ (1733-1795)の雪松図屏風 (三井記念美術館蔵)にあるとみられます。同じ素材を扱いながら応挙画と大きく異なるのは、奥行感が稀薄で、二次元上での構図と色彩のバランスに意識が向いている点にあります。そして、意外性のある形の面白さ、晩年の特色であるどぎつい表現が見られます。尾張徳川家の御用に应运って成った作品と考えられます。



20 『不形画藪』 1冊

木版色摺

縦28.3cm 横19.1cm

文化14年(1817年)

名古屋市博物館蔵

月樵の画譜。文化14年(1817年)、53歳(数え)時に刊行されました。道釈人物から花鳥山水、中国故事、相撲、狂言などの風俗など、多様な画題の計31図を掲載しています。寿老人に鶴といった見慣れた画題の画も、月樵の手にかかると生彩あふれる新鮮なものに生まれ変わり、見る者を飽きさせません。斬新な構図と絶妙なバランス感覚でデフォルメされた形、ほどよい滑稽味や愛嬌のある人や動物表現、そして自在な筆運びなど、壮年期の月樵画の魅力が詰まっています。

*展示期間中場面替あり



寿老人図 【展示 9/18~10/3】



相撲図 【展示 10/4~10/19】